

小カブ



(10アール当り)

| 時期 | 方法 | 資材と施用法 |
|-------|--|---|
| 地力作り | <p>なるべく早めに播種までに30日以上おく</p> <p>※堆肥が未熟なまま残存すると、カブの品質が悪化し、肌が荒れる ラクト・バチルス添加によって、土中の堆肥・有機物は醗酵状態に変わりますから、カブの作付け前に堆肥を投入できませんが、30日以上(なるべく60日)間隔をおく</p> <p>周年栽培の場合は年1回の地力作り 硫安・カルシウムは毎回施肥</p> | <p>●堆肥2トン(なるべく多く) ※堆肥・有機物が無い場合は、米ヌカ120kg以上。</p> <p>●ラクトバチルス600g →堆肥を安全に土中醗酵させ、通気・保水性のよい土壌にする。</p> <p>●硫安60kg ※砂地で堆肥が足りない場合のみ、硫酸カリ 20kg追加。 ※もし通常の複合肥料を使う場合は、チンソ成分で12kg程度。</p> <p>●畑の大将<青> 60kg(酸性土壌なら80~100kg) ※カルシウム栄養の供給と、土壌酸性の中和も行う。 ※栽培中にpH5.5以下になると生育が悪く、また根コブ病も頻発するので、万一酸性化が心配な場合は栽培途中にも畑の大将<青>を施して調節する。 通常、根コブ病対策のために、pH:7.2程度にしておくことが推奨されているが、7.0以上ではかえって充実が劣る。 普通の作物と同様に、6.0~6.5の範囲(高くても7.0迄)で、後半過度に酸性化させないことが重要。 ※カルシウムの施用は整地後、播種床への散布でも構わない</p> <p>●マンゾク・粒状30~60kg →根を強く伸ばし、生育を早く・強く進める。 特に連作畑や、根コブ病・萎黄病などが心配な畑の対策に。 (なるべくアブラナ科の連作を避けること)</p> <p>※上記4(~5)種を同時に散布して、畑土を耕す事。 ※土に塊を残さないようにして、キレイに整地する。 ※播種時には土壌ECが0.2(以下)と、落ち着いていることが大事。 ECが0.5以上になると、根部裂開が多くなる。</p> |
| 播種時 | 播種の直後、または播種直前の灌水時 | <p>●根っ酵素500倍液程度を十分に灌水(散水) →直根を一斉に強く伸ばし、土壌病害・連作障害にも強くする。</p> |
| 間引き時 | 本葉1~2枚時、3~4枚時(または生育が弱い時) | <p>●根っ酵素500倍液を葉上から灌水(散水) →根を伸ばし生長促進。 ※特に2回目の間引きで株間をあけて1本立ちとした時には、しっかり土まで染み込むくらいに灌水する。 ※間引き後の施肥(液肥)は過繁茂になりやすいので、明らかに肥切れの場合、アミノ酸液を散布する程度とする。</p> |
| 中期~後半 | 播種後20日 収穫前15日頃 | <p>●花咲くCa液500倍を葉面散布 →充実促進、葉軸強く。 ※チンソ過多を抑える。白サビ、ベトにも強くなる。 トンネル栽培では(特に換気不十分な時)軟弱徒長を防止。</p> |
| 収穫直後 | 間引き収穫の場合、2、3番株のために | <p>●根っ酵素500倍液を葉上から灌水(散水) →根を伸ばし生長促進。</p> |

秋播き・秋冬穫り:播種~収穫40~70日。秋冬播き・冬春穫り、トンネル・ハウス栽培:播種~収穫60~110日。周年栽培。

【品種】洋種系:金町小カブ系統(球形・鮮白色)、和種系、紫カブ、紅カブ